

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年6月17日(月)～23日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

昨日から、聖書日課はサムエル記第一。預言者サムエルについて、サウル王についてダビデについて、そしてイスラエルの民について、神さまのお取り扱いについて、学びましょう。

6月17日(月)

今日の聖書日課：Iサムエル2:1～17

さて、エリの息子たちはよこしまな者たちで、主を知らなかった。

Iサムエル2:12

Iサムエル2章は、ハンナの祈り、ハンナの賛歌で始まります。泣いて祈ったハンナ。祈りの中で「わたしはあなたを愛している」との主のことばを聞いたハンナ。子どもが自分のプライドの道具ではなく、神の栄光の現われであると知り、この子を献げますとハンナは誓いました。実際に生まれて来たサムエルが乳離れした時、ハンナは彼を祭司エリのもとに連れて行きました。以降、サムエルはこのエリのもとで生活することになります。

サムエル記はこのエリの家には二人の息子に注目します。すでに1:3にこの二人、ホフニとピネハスが紹介されています。なぜか？今日の2章でわかります。彼らは悪名高かったのです。ここには二人の悪行が記されています(13～17)。しかし、その根底にあったもの、それは彼らは「主を知らなかった」。エリの祭司の息子だから、主を、神をよく知っていることだろう。たしかに知識としては幼い頃から神を知っていたでしょう。しかし、神を体験していなかったのです。ハンナのように。そしてこれから記されるサムエルのように。

私たちが、さまざまな困難の中で、それだからこそ、主を知る、神を体験することができますように。

6月18日(火)

今日の聖書日課：Iサムエル2:18～36

なぜあなたがたは、わたしが命じたわたしへのいけにえ、わたしへのささげ物を、わたしの住まいで足蹴にするのか。なぜあなたは、わたしよりも自分の息子たちを重んじて、わたしの民イスラエルのすべてのささげ物のうちの、最上の部分で自分たちを肥やそうとするのか。

Iサムエル2:29

2章の続き。幼子サムエルは「主のみもとで成長した」(21)。しかしエリの二人の息子、祭司ホフニとピネハスの悪行が再び述べられています。エリは彼らに対して注意をします。が、この兄弟は「父の言うことを聞こうとしなかった」(25)。そのような中で主がエリに語られたことばが冒頭の聖句。「あなたは、わたしよりも自分たちの息子を重んじて」。だれよりも主を信じ、主を重んじていた、そう自覚していたエリ。しかし主の目にはこのように映っていたのです。言っても聞か

い。いくら言っても聞く耳持たない息子たち。しかしエリもまた、ハンナのように泣いて祈るべきでした。そして主の答えをいただきながら、息子たちに向き合い続けるべきでした。

主を重んじる、とはどういうことなのでしょう？

6月19日（水）

今日の聖書日課：Iサムエル3：1～21

主が来て、そばに立ち、これまでと同じように、「サムエル、サムエル」と呼ばれた。サムエルは、「お話しください。しもべは聞いております」と言った。

Iサムエル3：10

幼子サムエルが、主を知った瞬間です。いや、すでにこのときまで、三回、主はサムエルに語りかけていました。サムエルはエリに言われたとおり「お話しください。しもべは聞いております」と答えました。実は「主よ」が欠けています（9）。なぜか？サムエルは主を知らないからです。しかしこのサムエルの答えを聞いて、主はサムエルに語り始められました。これが預言者サムエルの誕生物語です。

私たちの、私たちの愛する子ども、教会の子どもたちの名を神さまが今日、呼んでくださいますように。

6月20日（木）

今日の聖書日課：Iサムエル4：1～22

彼女は言った。「栄光はイスラエルから去った。神の箱が奪われたから。」

Iサムエル4：22

サムエルが全イスラエルに対する預言者として立てられました。同時にそのとき、祭司エリの息子ホフニとピネハスは死にました（11）。ペリシテ人との戦いにおいて、二人は神の箱（契約の箱）を頼りましたが、悔い改めのないイスラエルにとって、それはただの物体であり、何の力も発揮せず。ペリシテ人に奪われました。冒頭の聖句は出産する間に、夫の死を知らされたピネハスの妻が言ったことば。おそらくこの後、彼女も死んだと思われます。

これが預言者サムエルのスタートのときでした。

6月21日（金）

今日の聖書日課：Iサムエル5：1～12

主の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、アシュドデとその地域の人たちを腫物で打って脅かした。

Iサムエル5：6

神の箱を奪ったペリシテ人。ただの物体と化した神の箱。しかし、この箱がペリシテ中でわざわざいを引き起こしました。そのようにペリシテ人には思えることがあちこちで起きました。箱の魔力ではありません。主の手、神の手が動いたのです。私たちは生ける神を恐れるべきです。

6月22日（土）

今日の聖書日課：Iサムエル6：1～21

主はベテ・シエメシュの人たちを打たれた。主の箱の中を見たからである。主は、民のうち70人を、すなわち、1000人に5人を打たれた。主が民を激しく打たれたので、民は喪に服した。

Iサムエル6：19

神の箱はイスラエルに帰ってきました。しかしイスラエル人（ベテ・シエメシュの人たち）は、主を恐れませんでした。同時に、この出来事はイスラエルが再び主を恐れる契機となりました（20）

6月23日（日）

礼拝説教箇所：Iサムエル3：1～14 「あなたを呼ぶ声」

子どもも一緒に礼拝。再び、主が「サムエル、サムエル」と呼ばれたところを読みます。